

2020年2月26日
独立行政法人情報処理推進機構

AI ビジネスの最新動向を解説する「AI 白書 2020」を発行
～国内 541 社の AI 利用動向調査結果を踏まえ、AI 導入の課題を深掘り～

IPA（独立行政法人情報処理推進機構、理事長：富田 達夫）は、AI の技術や利用動向、制度政策などの最新動向を特集とともに網羅的に解説する「AI 白書 2020」を制作しました。「AI 白書 2017」「AI 白書 2019」に続く 3 刊目となる本書は、全国の書店等で 3 月 2 日から発売されるほか、3 月中旬には電子書籍としても購入可能です。

URL: https://www.ipa.go.jp/ikc/publish/ai_hakusyo.html

近年、デジタル技術やデータ等の活用で組織の競争力を向上する取組みであるデジタルトランスフォーメーション（DX）が注目を集めています。DX の推進には、既存の IT 技術のみならず、人工知能（AI）や IoT 等の新しい技術を導入することが肝要です。しかし「AI 白書 2020」で実施した利用動向調査では、ユーザー企業 525 社中、AI を実導入している企業はわずか 4.2%と、国内企業への導入は依然として進んでいない状況が明らかになっています。また、AI 人材について約 70%の企業が「データ分析を活かせる従業員」や「自社への AI 導入を推進できる従業員」が不足していると回答するなど、幅広い分野の人材に AI の知識が必要であることを示しています。本書はこうした利用動向調査の結果を踏まえ、AI 導入における課題や実装の推進に向けた取組みなどを、企業の経営層や現場のビジネスパーソンにも分かりやすく解説しています。

また本書では、AI の技術を「知的活動を実現する技術」として認識、理解、学習、判断、予測、言語、知識、身体、創作の 9 つに分類し、それぞれに「概要」「主な技術」「最新技術動向」を解説しています。過去の AI 白書では内容が難しすぎるとの声を反映し、「概要」を初学者にも取り組みやすく説明しながら、専門家にも読み応えがある内容で「最新技術動向」を記述しています。

このほか特集では、「AI 人材育成」と「地域スタートアップエコシステム」に焦点を当て、AI 実装を推進する取組を紹介しています。IPA「AI 白書 2020」の主な構成は以下のとおりです。

- 第 1 章 2020 年の AI とビジネス：産学の有識者による対談
- 第 2 章 技術動向：AI を 9 分類で解説するほか、関連技術や各国の研究開発の現状
- 第 3 章 利用動向：15 分野の事例調査や中小企業を含む 541 社のアンケート調査結果
- 第 4 章 制度政策動向：AI に関する原則・ガイドライン等や国内・海外の政策動向
- 第 5 章 特集 AI 実装を推進する「AI 人材育成」と「地域スタートアップエコシステム」

AI 白書 2020

印刷書籍版

頁数：536 ページ

発行日：2020 年 3 月 2 日

定価：3,800 円（消費税別）

発行：株式会社角川アスキー総合研究所

発売：株式会社 KADOKAWA

ISBN：978-4-04-911034-0



■ 本件に関するお問い合わせ先

IPA 社会基盤センター イノベーション推進部

リサーチグループ 遠山／小沢

Tel:03-5978-7522 Fax:03-5978-7517 E-mail:ikc-rs-ai-jimu@ipa.go.jp

■ 報道関係からのお問い合わせ先

IPA 戦略企画部 広報戦略グループ 伊藤

Tel: 03-5978-7503 Fax: 03-5978-7510 E-mail: pr-inq@ipa.go.jp

<訂正：2020 年 2 月 26 日>

（誤）しかし「AI 白書 2020」で実施した利用動向調査では、回答企業 541 社中、AI を実導入している企業はわずか 4.7%

（正）しかし「AI 白書 2020」で実施した利用動向調査では、ユーザー企業 525 社中、AI を実導入している企業はわずか 4.2%